

KSKS

No.119

22.6.27

ゆいゆい通信



編集人 社会福祉法人 寧楽ゆいの会
〒631-0823 奈良市西大寺国見町3-5-5
TEL/FAX 0742-41-6039
URL <http://narayuinokai.or.jp>

定価 1部50円
年間 300円

◆法人からの報告

「虐待防止・身体拘束適正化の取り組み」
理事 大田 雅子 … 1

◆Reports

◇2021年度実態調査結果 … 2・3
◇ともしび会総会 … 4

◆News

◇奈良市基幹型相談支援センター … 4

◆Reports

さわやぎ／ぼすと … 5
歩っと地活／D-PORT … 6
こもれば生訓／こもれば地活 … 7
こもれば就労 … 8

◆Thanks

後援会費納入者 … 8

安心して利用してもらうために 虐待防止・身体拘束適正化の取り組み

令和3年度の報酬改定において「虐待防止」と「身体拘束適正化」の推進のため、令和4年4月1日から取り組みが義務化されました。寧楽ゆいの会でも昨年度から仕組みや取り組みについて検討を重ねてきました。以下、主な内容です。

【虐待防止・身体拘束適正化委員会の設置】

利用者の安全と人権保護の観点から、適切な支援が実施され、利用者の生活と社会参加の促進を妨げる事のないよう、身体拘束適正化を含む虐待防止に努めることを目的とした委員会を設置しました。

理事長を委員長とし、委員は虐待防止担当者、研修担当者及び苦情解決委員会委員から各1人が任命されました。委員会は虐待と思われる案件が上がった際に随時開催します。また、月1回行なっている施設長・主任会議において、現場での虐待行為や、それにつながる恐れのある行為・状況について積極的に集約し、報告しあいます。それらについても必要に応じて委員会を開催して検討します。

その他、年1回法人内で研修を行なうことや、日

頃から職員に対し人権意識の向上や知識の習得を図り、環境づくりを目指します。



【身体拘束適正化の指針】

寧楽ゆいの会では、身体拘束は利用者の行動自由を制限するものであり、尊厳のある生活を阻むものとして、身体拘束ゼロを目指します。

身体拘束となる具体的な行為としては、動けないように身体を固定する行為だけでなく、鍵がかかる居室等に隔離したり、威圧的な言動や対応をする、要望に対して無視・無関心・支援拒否をすることなども含まれると考えています。

指針には、未然に防ぐ対応や、やむを得ず実施する際の対応、実施事後の対応など記載しています。この指針は法人のホームページにも掲載します。

6月1日に行なわれた法人内の職員会議にて、規程の内容や取り組みについて共有をし、現場での対応を振り返り、職員が対応を抱え込まない方法についてなど議論しました。

虐待防止の取り組みは、利用者だけでなく、職員自身を守ることに繋がります。利用者の声を聞き、小さな芽を見逃さず、日頃からの改善に取り組んでいきます。
(大田雅子)

2021年度 実態調査結果

～老齡期の生活・福祉サービスについて～

ゆいの会では利用者の生活実態を把握し、今後の取り組みに反映させることを目的に毎年実態調査を行なっています。2021年度は例年の基本項目に加え壮年期・老齡期の状況や課題について把握するため『生活について』『福祉サービスについて』の項目を追加しました。調査は2021年8月～9月末に実施し、10事業所132人から回答を得ました。

(詳細は『2021年度 社会福祉法人寧楽ゆいの会 活動の概要』を参照ください。)

【生活について】

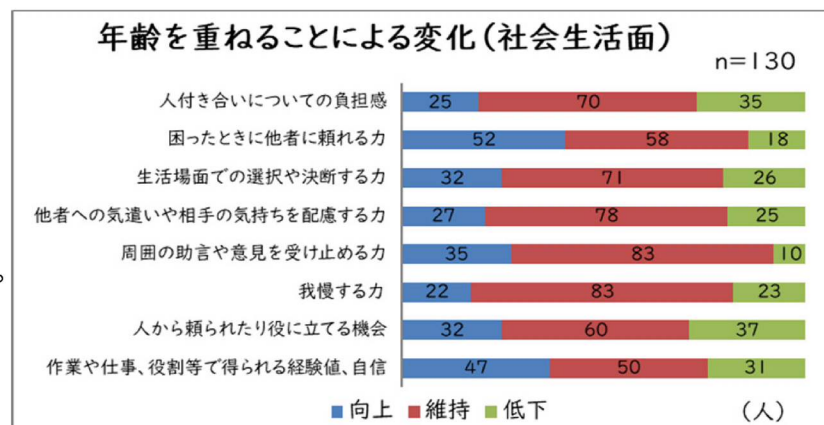
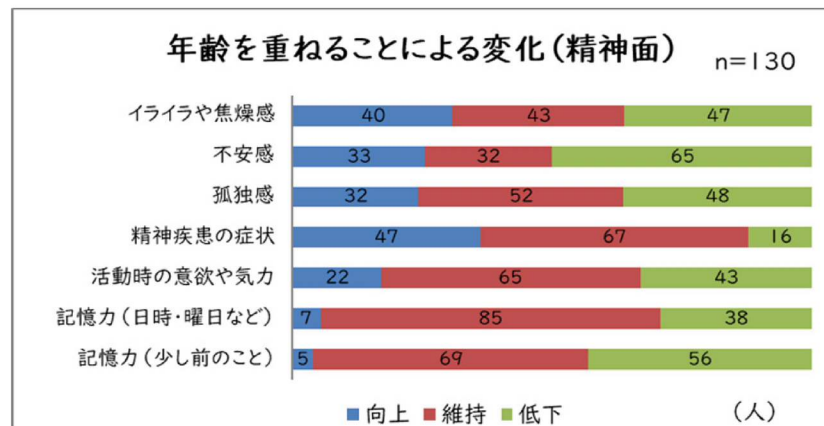
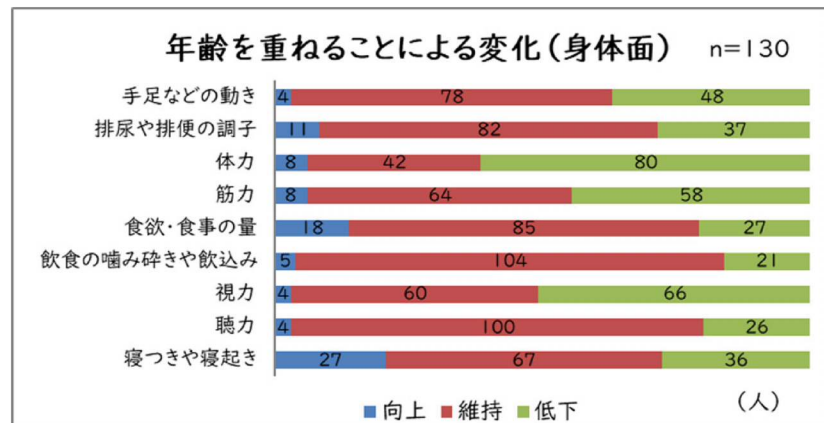
ここ10年間で、年齢を重ねることで感じる変化について回答してもらいました。

身体的な面で「向上している」と感じることは、「寝つき・寝起き」27人(20.9%)が最も多く「維持できている」と感じることは「飲食の噛み砕きや飲み込みの力」104人(80.0%)が最も多い結果でした。

「低下していること」では「体力」80人(61.5%)が最も多く、年齢と共に低下していると感じている人が多いようです。

精神的な面で「向上している」と感じることは、「精神疾患の症状」47人(36.2%)が最も多く、年齢を重ねることで症状とうまく付き合っていることや回復してきていると感じている人が多いことがわかります。「維持できている」と感じることは「日時・曜日、生年月日などの記憶力」85人(65.4%)が最も多い結果となりました。「低下していること」では「不安を感じる機会が増えた」65人(50.0%)となり、年齢に伴う身体的、精神的な変化や将来の不安などから半数の人が不安を感じていると考えられます。

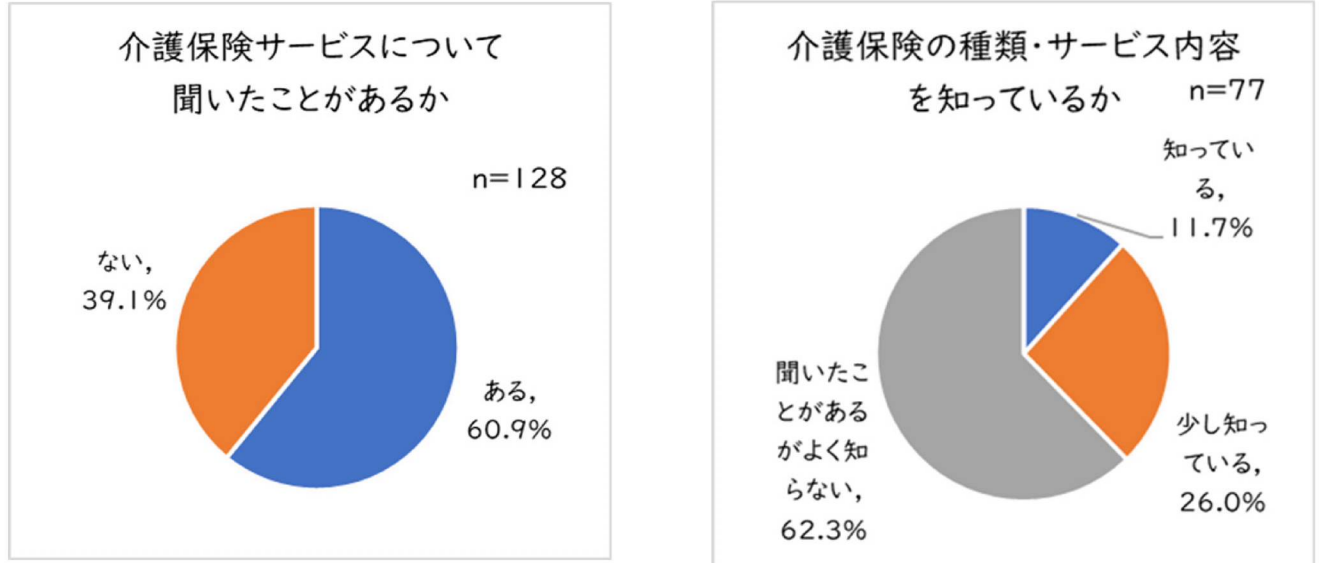
社会生活面で「向上している」と感じることは、「困ったときに他者に頼れる力」52人(40.6%)が最も多く、訪問や通所のサービスの利用によって相談できる環境にいると考えられます。「維持できている」と感じることは「周囲の助言や意見を受け止める力」「我慢力」各83人(64.8%)が最も多い結果でした。理由としては「引きこもりから事業所を利用して、自信をもった」などありました。「低下していること」では「人から頼られる機会、役に立てる機会」37人(28.7%)で、年齢を重ねることでその機会が減っていることがわかります。



【福祉サービスについて】

介護保険サービスについて、「聞いたことがある」は78人(60.9%)、「聞いたことがない」は50人(39.1%)でした。「聞いたことがある」と答えた78人のうち、介護保険の種類やサービス内容については、「知っている」9人(11.7%)、「少し知っている」20人(26.0%)、「聞いたことがあるがよく知らない」48人(62.3%)と、過半数の人がサービスの内容までは知らない結果となりました。

また、自身が65歳以上または介護が必要になった時に必要と感じるサービスについては、「相談に乗ってくれる支援」21人(16.8%)が最も多く、次いで「管理強制されない居場所」19人(15.2%)、「自分が求める家事支援」16人(12.8%)という結果になり、他者との繋がりや居場所を必要としている人が多いことがわかりました。(藤原美里)



65歳以上または介護必要となった時に必要と思うもの

